

外貨建ての組合の会計処理事例メモ

組合側の処理

X1/4/10

組合は 200 万ドル分のキャピタルコールを行い、全額の払い込みを受けた。

(現金預金)	2,000,000	(出資金)	2,000,000
--------	-----------	-------	-----------

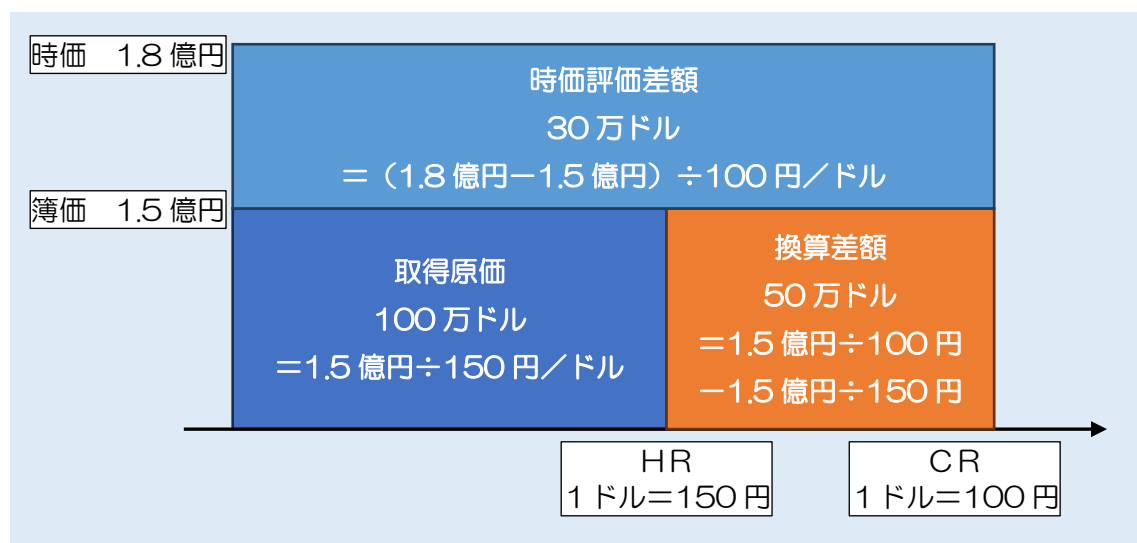
X1/4/12

組合は外国株式を 100 万ドル分取得した。取得時のレートは 1 ドル＝150 円、当該外国株式の取得原価は外貨ベースで 1.5 億円だったとする。

(外国株式)	1,000,000	(現金預金)	1,000,000
--------	-----------	--------	-----------

X1/6/30

組合は決算を迎え、マネージャーにマネジメント・フィーを 500,000 ドル支払った。また、今期取得した外国株式（取得原価：1.5 億円）を時価評価したら 1.8 億円で、為替相場は 1 ドル＝100 円だった（つまり株式の期末時価の自国通貨換算額は 1.8 億円÷100 円／ドル＝180 万ドル）。



(管理報酬)	500,000	(現金預金)	500,000
(外国株式)	800,000	(有価証券評価益)	300,000
		(為替差益)	500,000

B／S と I／S は次の通り。

資産項目	金額	負債出資金	金額
現金預金	500,000	出資金	2,000,000
外国株式	1,800,000	利益剰余金（※）	300,000
資産合計	2,300,000	負債出資金合計	2,300,000

※利益剰余金のうち有価証券の時価評価に伴う部分は 80 万ドル

<収益>

有価証券評価益 300,000

為替差益 500,000

<費用>

管理報酬 500,000

<当期利益> 300,000 →利益剰余金勘定へ

L P 側の処理

X1/4/10

L P は 200 万ドル分のキャピタルコールに応じ、全額の払い込みを行った。為替相場は 1 ドル＝149 円だった。

(組合出資金) 298,000,000 (現金預け金) 298,000,000

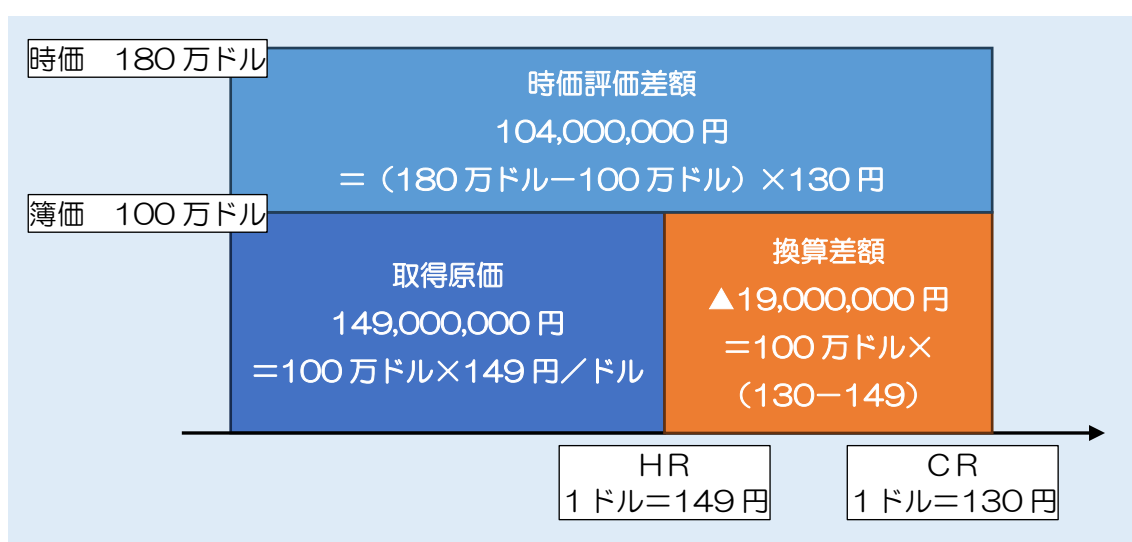
X1/9/30

L P は組合から決算を入手して取り込むことにした。為替相場は A R が 1 ドル＝120 円、C R が 1 ドル＝130 円だったとする。ただし、組合決算は実務的に 3 ヶ月遅れるため、3 ヶ月前の 6 月 30 日時点のものを取り込む。

(1) 改正 9 号を適用し時価のまま取り込む場合

● 組合決算書から判明する L P 持分→230 万ドル

- 期末換算に用いる為替レート C R → 1 ドル = 130 円
- 組合出資金の帳簿価額は 230 万ドル × 130 円 = 299,000,000 円となる
- 有価証券以外の組合の資産負債について、H R は投資家が出資した時点の 1 ドル = 149 円、C R は 1 ドル = 130 円を利用し、差額はすべて為替差損益として処理する
- 組合マネジメント・フィー 50 万ドルは A R = 120 円で換算する（C R と A R の差額 50 万ドル × (130 - 120) = 5,000,000 円は為替差損益で計上する）
- 組合が保有している有価証券（6 月末の時価 180 万ドル）については 1 ドル = 130 円で換算する（= 234,000,000 円）
- 時価と取得原価の差額については下記表のとおり分解する



(組合出資金)	1,000,000	(有価証券評価差額金)	104,000,000
(有価証券評価差額金)	19,000,000		
(為替差損)	19,000,000		
(組合費用)	60,000,000		
(為替差損)	5,000,000		

(2) 改正 9 号を適用せず有価証券を取得原価に戻して取り込む場合

- 組合決算書から判明する L P 持分 → 230 万ドル
- 有価証券を時価評価しなかった場合 → 有価証券は 180 万ドルではなく 100 万ドル
- 有価証券は一切時価評価せず組合の簿価を H R で円換算した金額を簿価とする
- マネジメント・フィー 50 万ドルを支払ったため、組合総資産は 150 万ドルに減少
- マネジメント・フィー 50 万ドルは A R で換算し、C R との差額は為替差損益

(為替差損)	19,000,000	(組合等出資金)	84,000,000
(組合費用)	60,000,000		
(為替差損)	5,000,000		